

# 人権なら

2022年6月1日

第138号

NPOなら人権情報センター

●ひと・まち・生き生き

## 通常総会は6月18日に

### 当面の事業・活動課題を事務局会議で協議

NPO法人なら人権情報センターは5月17日、事務局会議を開催。この間の活動報告を共有化するとともに、定期総会や、2年間、開催中止を余儀なくされた第13回「差別と人権」研究集会について協議した。

コロナ禍も3年目に入ったが、新年度の委託事業も例年同様に動き出している。事務所は、長年勤務の職員1人が退職したものの、新職員2人が加わったことで、業務の引き継ぎや、事務所の改修・配置替えが慌ただしく続いたが、やっと落ち着いた。

だが、抱える組織的な課題、事業・活動課題は山積み。整理を進め、活動を進めていくことを確認した。

### 第13回「差別と人権」研究集会は9月開催へ

今年度の主な活動を協議。NPO法人なら人権情報センターの通常総会は6月18日、三宅町のあざさ苑(2階研修室)で午前10時から開催することとした。

また、第13回「差別と人権」研究集会は9月3日に「コロナ禍、人間・いのちと差別を考える」をテーマに開催。記念講演は最首悟さん(和光大学名誉教授。写真)に依頼することとした。



最首さんは「津久井やまゆり園」事件に衝撃を受け、事件当初から、獄中の元職員、植松聖(さとし)容疑者と文通、接見を続けてきた。

事件は2016年7月、神奈川県相模原市にある県立障害者施設で起きた。重度障害者19人が殺害され、職員2人を含む26人が重軽傷を負った。横浜地裁は2020年3月、植松被告に死刑を言い渡した。

ダウン症で複合障害の三女星子さんが居る最首さ

んは、植松容疑者を「正気だ。また、共感する人もいる」とみてきた。「いのちの大切さ」という言葉では語りつくせない重度障害者を持つ親の苦悩を語りつつ、「だからこそ、この青年の行為を許してはならない」と。

### 「コロナ禍、人間・いのちと差別」をテーマに

3年目に入ったコロナ禍、世界の感染者5億3千万人。死者数630万人。日本では、感染者882万人。死者数3万人を超えている。

いまだ収束が見通せない中、2月24日にはロシアのウクライナ侵攻が始まった。日本も含む欧米諸国はロシアへの経済制裁を図るとともに、アメリカをはじめNATO諸国はウクライナへ武器類を提供する。戦争は長期化の様相を見せている。

時代をめぐり、藤原辰史(京都大学)さんは、歴史を顧みないこの国と社会は、格差と差別が深まり、亀裂を深めてきたと痛烈に批判している。

こうした時代だからこそ、今研究集会を通して、「人間と差別」をめぐり、さまざまに感じ・考え・共感が広がっていくことを期待している。

\*\*\*\*\*

### ■ 米田富顕彰碑を草刈り清掃

五条市にある米田富顕彰碑の草刈り掃除を5月6日に行った。毎年、命日のこの時期に実施してきた。2年前からは、5月の連休時期と、夏草が終わる秋に、年2回、



行っている。通常、葛のつる草が多く、作業に手間取ることが多い。だが、今回は日差しもさほどなく、作業も順調に進んだ。近所の方が「ここ数年、フィールドワークで訪れる人が増えている」と、声をかけてくれた。

## ハンセン病問題を講師招き学習

### 田原本町企業内人権教育推進協議会が総会

田原本町企業内人権教育推進協議会は5月27日、田原本青垣生涯学習センターで2022年度総会を開催した=写真。



倉本揚司・会長が開会あいさつ。森章浩・田原本町長が来ひんあいさつしたあと、会長が議事を進行。事業報告、会計報告、会計監査、2年ごとの役員改選を行った。谷野守弘さんが新会長に選出され、就任あいさつ。そのあと、今年度の事業案、予算案を承認し、総会を終えた。

### 回復者支援センターの加藤めぐみさんが話

総会に続いて、記念講演があった。講師はハンセン病回復者支援センターの加藤めぐみさんと、ハンセン病関西退所者原告団いちよの会の岡山育夫さん(仮名)の2人。



加藤さんは、明治以降のハンセン病療養所の建設と、患者の強制隔離、戦前戦後を通じて行われた「無らい県運動」を説明し、「国のハンセン病対策としての隔離絶滅政策が過ちであり、私たち自身も加害者ではなかったのか」と、全員に問いかけた。

また、ハンセン病問題とは、「ハンセン病回復者とその家族に対する重大な人権侵害であり、それは現在も続いている差別の問題である」。コロナ禍での感染者、家族、医療従事者に対する差別や偏見と重ね合わせ、私たち自身が問われている、と指摘した。

### 岡山育夫さんが社会生活で受けた差別を語る

岡山育夫さんは小学5年の時、ハンセン病を発症し、岡山県にある療養所の長島愛生園に入所する過程や、そこで過ごした青年時代。その後、回復し、退園

後、社会生活の中で受けてきた様々な差別。とりわけ、結婚しようとした相手の家族からの拒絶。現在も自分の子どもの結婚に対する不安を語った=写真。

二人の講演は、コロナ禍にある現在、「なぜ人は排除するのか。受け入れようとしないのか」を一人ひとりに問い掛け、考える良い機会となった。

\*\*\*\*\*

## かいほう塾が今年度も開講

### 中学生20人が出席して開講式を実施

新年度のかいほう塾が5月19日から、三宅町交流まちづくりセンター(MiiMo)で始まった=写真。

この日、午後7時から開講式。中学生20人が出席した。主催する三宅町教育委員会の中谷亮一・事務局長が開講あいさつ=写真。生徒が通う式



下中学校の中本克広・校長が「他人のことを思いやれる人になってほしい」と応援のこたばをかけた。

そのあと、ボランティアスタッフの式下中学の先生たちや、家庭教師のトライ、NPO担当者が自己紹介を行い、学習に入っていった。

### 趣旨目的は中学生の学力支援と居場所づくり

生徒たちは、思い思いの学習教材を持参し、スタッフに声をかけながら、学習に取り組んだ。

かいほう塾の趣旨目的は中学生の学力支援、「居場所」づくり。だが、周りの大人たちがそれを支えていく地域づくりも重要となる。

いまだコロナ禍の状況であるため、各自が検温、手指消毒を行いながら、実施していくことにしている。



かいほう塾の今後の日程は、6月が2日、9日、16日、23日。7月が7日、14日となる。8月は「夏季教室」として、25日と、30日に開講する。

## カンボジアからの風 <21>

### 4月15日前後に新年を迎えるカンボジア

カンボジアは毎年4月15日前後に新年を迎えます。

今年も4月14日午前10時、天から女神が降りて来て、年が明けます。その時に願い事を叶えてくれるそうで



す。そのため、人々は女神の好物をお供えします。

寅年の今年の好物は黒胡麻です。家の高い位置に一番星に見立てた飾りをつけて女神に見つけてもらいやすいようにします。

コロナがあって実質3年ぶりのお正月。楽しそうに過ごしている村の人たちをみて胸が熱くなりました。

### オカさんこと栗本英世さんが旅立ちました

お正月の少し前、カンボジアこどもの家の創始者、オカさんこと栗本英世さんが旅立たれました。1990年代にポイペトに来て、作った学校は15校以上。地雷の撤去、村づくり、仕事づくり…あらゆる問題を解決してきた栗本さん。彼の活動は船戸与一さんの「夢は荒地を」という小説のモデルにもなっています。

わたしは2003年、オカさんに出逢った母に付いて初めてポイペトに来て、そこからポイペトに通う日々が始まりました。2009年には、カンボジアこどもの家のスタッフとしてポイペトに生活の拠点を移しました。

オカさんの体調不良もあり、こどもの家の活動が難しくなった時、なかまたちとサンタピアップを立ち上げました。

### まずは困っている人の友だちにならなきゃ

カンボジアに来て、何もわからないわたしにオカさんは、何も「教えて」はくれなかった。そもそも人に何かを教えるとかいうタイプの人ではなかったと思う。

人の立場に立って考える。視線を合わせる。そんな

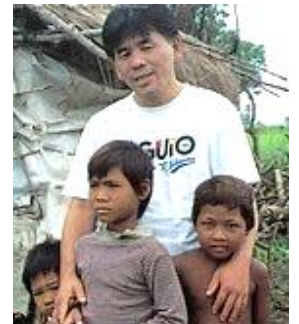
こと言ってるうちはダメだ。相手の立場には立てないし、視線を合わせるというのは、必ず上から下に見下ろしている。それじゃ本当に困っている人のお手伝いはできないよ。まずは友だちにならなきゃ。これは一方通行では成り立たない関係だからね、とよく言っていた。

これは諦めの言葉ではなく、あなたのことを理解したい。わかり合いたい、という希望が込められた言葉。オカさんの視線の先には、子どもたちや貧しい人たち、大波の中で取り残されてしまいそうな人たちがいた。

### チャンスを持って来るというオカさん

オカというのはカンボジア語でチャンスとか、機会とか、チャンスを持って来る人という意味で、カンボジアの人が名付けたニックネームらしい。

駄洒落が好きでわがままで、めちゃくちゃなオカさん。周りの人たちはいつもそれはそれは振り回されてきました。それでもわたしは付いて行きたいと思った。それだけオカさんには人としての魅力がありました。



迷った時には、オカさんならどうするだろうと考えます。オカさんが守ってきた大切なものを少しでも守ることができたら、少しは恩返しになるかなと思います。

### オカさんは何年経ってもわたしの目標です

オカさんの背中には到底、届かないけど、オカさんの「それで良いんだよ。僕と沙樹ちゃんは違う人間なんだから」と言う声が聞こえてくる気がします。

オカさん。わたしをこの地に導いてくださって本当にありがとうございました。おかげで今のわたしが在ります。豊かな人生を送らせていただいています。オカさんは何年経ってもわたしの目標です。長い間、本当にお疲れ様でした。そちらにいる沢山の懐かしい人たちと楽しく過ごして下さい。

(NPO法人サンタピアップ代表・古川沙樹)

## 琉球弧を再び戦場にするな！

### 沖縄対策の根幹は「差別と軍事植民地主義」

沖縄「返還」50年ー琉球弧を再び戦場にするな！  
日米地位協定の見直しを求める奈良県集会在5月28日、橿原文化会館であった。主催は奈良ー沖縄連帯委員会、ぷらっとほ一む奈良、琉球人遺骨返還を求める奈良県会議。



崎浜盛喜さんが問題提起。1972年5月15日の「祖国復帰」を振り返り、自身の苦悩を語るとともに憤りをもって話をした。米軍の20数年にわたる圧政に抗する70年「コザ民衆決起」、71年5月「返還協定調印粉砕ゼネスト」、11月10日の返還協定「国会批准反対ゼネスト」が沖縄全土で闘われた。日本政府の沖縄対策の根幹は「差別と軍事植民地主義」だ。

現在、「北朝鮮ー中国の脅威」を煽りつつ、「辺野古新基地建設」をはじめ、奄美大島ー宮古島ー石垣島ー与那国島ー沖縄本島を結ぶ「琉球弧」の「軍事要塞化」へミサイル基地建設が進む。プーチンによる

### 編集後記 ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

注目の映画「教育と愛国」。大阪の映画館で観て教育の危うさに驚愕した。教育への政治的圧力や介入が露骨なのだ。学問の自由が侵害されている。2006年に教育基本法が改悪。「愛国心」が盛り込まれた。以降、「教育改革」や「教育再生」の名のもと、教科書検定が力を増す。2014年には政府の統一の見解に基づいた記述が強いられた。歴史教科書で顕著だ。保守派は「自虐史観」と攻撃。史実がねじ曲げられる。「強制連行」は「動員」、「従軍慰安婦」は「慰安婦」に換わった。2020年には日本学術会議任命拒否も。介入批判する人にはバッシング。跳ね返す力が必要だ。

「ウクライナ侵略戦争」の危機に乗じ、「改憲に突き進まん」としている。「琉球人遺骨返還訴訟」や、米軍の基地被害「有機フッ素化合物(PFAS)汚染」にも触れ、「日米地位協定の抜本的改定」への闘争課題を提起した。



平和フォーラムの近藤伸一さん、部落解放同盟県連の伊藤満さんが連帯表明。三宅町議の松本健さんが議会での「日米地位協定の見直しを求める意見書」採択を報告。中西巖さん(返還を求める県会議)が「琉球人遺骨返還訴訟判決」の批判を行った。

### 山城博治さんが「命どう宝の会」の思いを語る

山城博治さんが沖縄から駆け付けて講演。「ノーモア沖縄戦 命どう宝の会」発足の思いを語った。

5月15日の「沖縄復帰50周年記念式典」は国策のペテンを露骨に表出した。「日米の二大強権国家に凌辱され続ける沖縄は、これから50年、さらに強まる日米同盟によって、いよいよ抜き差しならない地獄へと追い落とされるのか」と自問。政府の無謀な対中国戦略によって沖縄が再び戦場にされようとしている。それを何としても止めなくてはならない。そのために、「ノーモア沖縄戦 命どう宝の会」を結成した。



「命どう宝の会」のメールマガジンに載せた「南西諸島を決して戦場にさせてはならない。「復帰50年の沖縄を問う」の記事を紹介し、「米国の恫喝に屈して、日本を破滅の道に導く政府や、安倍氏ら保守強硬派議員の妄動」を厳しく批判。共に頑張ろうと語った。

### ニュースレター「人権なら」

発行:NPO法人なら人権情報センター  
〒636-0223

奈良県磯城郡田原本町鍵301-1

TEL:0744-33-8585/FAX:0744-32-8833

E-mail:info@nponara.or.jp

http://www.nponara.or.jp/